

大月町 事前復興 まちづくり かわら版

龍ヶ迫

第2号

昨年度に引き続き、令和7年度
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月5日（土）13:30～15:30、龍ヶ迫集会所にて事前復興まちづくり計画に向けた地区ワークショップが開催されました。

第2回地区ワークショップでは、「南海トラフ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、地区としての復興の方向性や、被災後の多様な住まい方に関する意見交換を行いました。

【地区としての復興の方向性】

海を利用した仕事ができたらいい

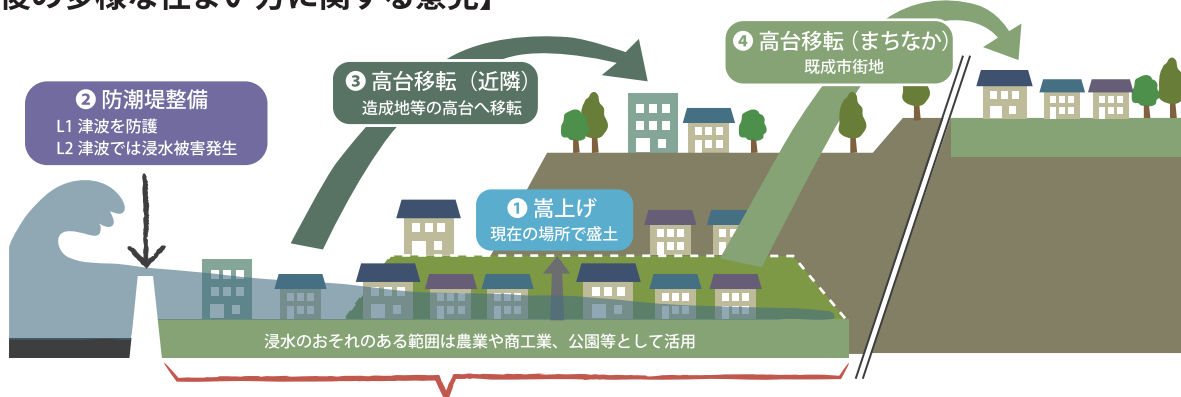
- ・港の土地を使って、船外機の修理を事業としてやる
- ・海を活用して活性化を図る（給油）
- ・外部の人に声をかけて大きな事業などをしてほしい

- ・観光業での復興は難しいのでは？
- ・県外の釣り客人にきてもらいたい
- ・バナナは強いけど、やれる人がいない

欲しい機能

- ・買い物支援（移動販売）と町なかへの移動手段（バス）は続けて欲しい
- ・ヘリポートが欲しい
- ・給油設備

【被災後の多様な住まい方に関する意見】



居住の制限

浸水のおそれのある区域は居住の制限を検討
※範囲は L1 対応の堤防整備等を踏まえて津波シミュレーションの結果を踏まえて設定

1 嵩上げ

- ・現地再建したい

- ・可能であれば今の場所に残りたい
- ・家の周りの畑は戻す。できたら段々畑を広く

- ・観光客が来るか不安

2 防潮堤整備

3 高台移転（近隣）

- ・事前に土地があれば、ここに戻れるという希望も持てる
- ・建てられるように整備ができるならここに住みたい
- ・山を切って団地を作る（仮設住宅も建てられる）
- ・災害公営住宅も地区内に欲しい

4 高台移転（まちなか）

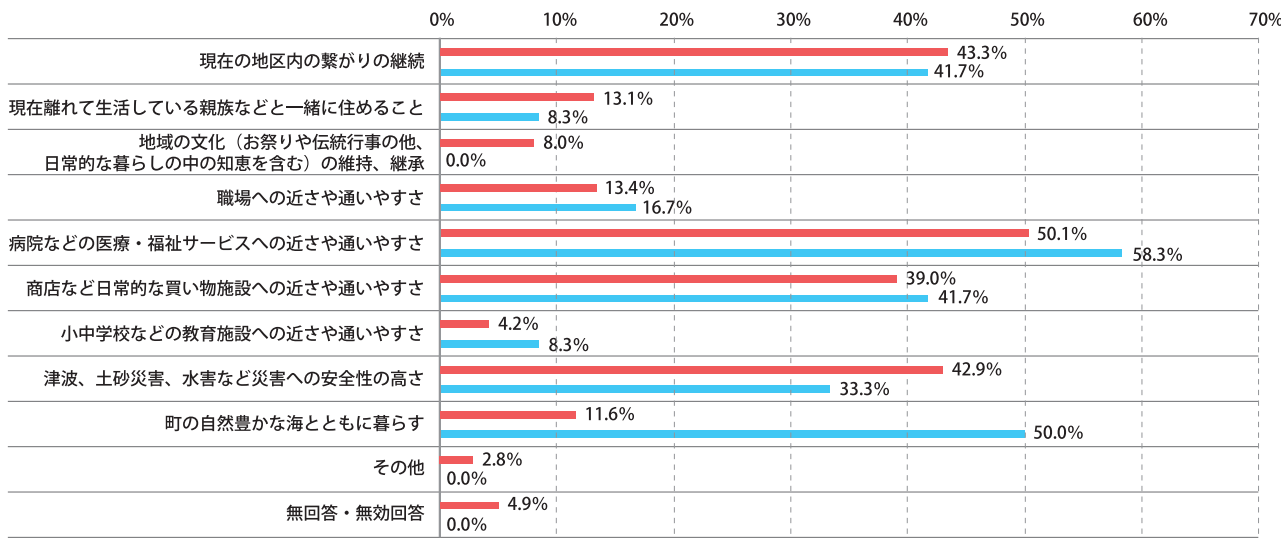
- ・できるだけ地区でまとめて移転できると良い
- ・地区の人の顔が見れる範囲で、安全な場所で暮らすのもいいかも
- ・地区内でも2分する（孤立する）

- ・町外の子どもの家に行くかもしれない子どもと住めなくても、別に移転するかも）

大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

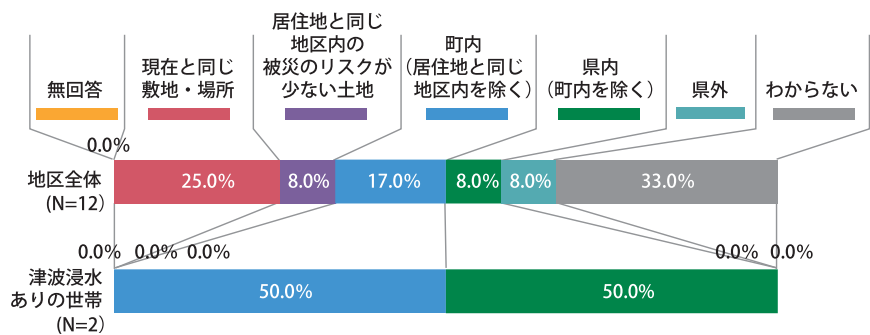
2025 年 8 月 25 日までの2週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



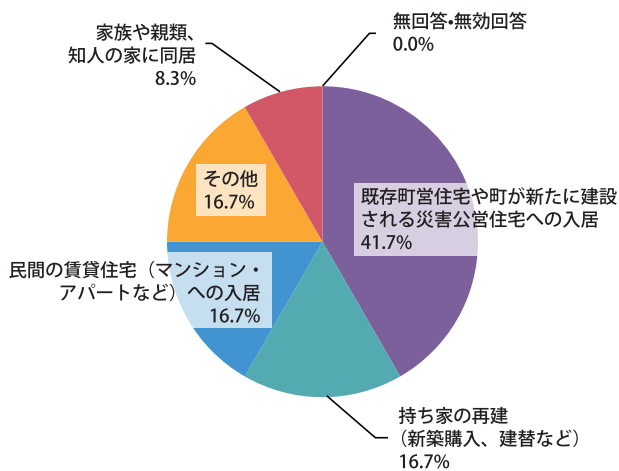
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 50.1% と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」が 43.3% となった。龍ヶ迫地区では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 58.3% と最も多く、次いで「町の自然豊かな海とともに暮らす」が 50.0% となっている。

●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所については、龍ヶ迫地区全体では「わからない」が 33.0% と最も多く、次いで「現在と同じ敷地・場所」が 25.0% となった。津波浸水の予想される世帯では「町内（居住地と同じ地区内を除く）」が 50.0%、「県内（町内を除く）」が 50.0% と、二分している。

●復興の際の住まいの形態 (N=12)



●復興の際の住まいの形態については、「既存町営住宅や町が新たに建設される災害公営住宅への入居」が 41.7% と最も多く、次いで「持ち家の再建」、「民間の賃貸住宅への入居」、「その他」が 16.7% となっている。